

## 灰塚ダム周辺の地域概況(案)

平成 19 年 11 月 29 日

# 目 次

1. 合併 .....	1
2. 自然環境 .....	1
(1) 位置・地勢 .....	1
(2) 気象 .....	2
(3) 動植物 .....	3
3. 社会環境 .....	4
(1) 人口 .....	4
(2) 産業 .....	7
4. 特色 .....	10
(1) 三次市 .....	10
(2) 庄原市 .....	12
5. 参考資料：市民の声（住民アンケート） .....	14
(1) 地域で誇れるもの、自慢できるもの .....	14
(2) 地域への愛着度 .....	15
(3)-1 将来について（定住意向） .....	16
(3)-2 将来について（地域のあり方） .....	17

# 三次市と庄原市の地域概況

## 1. 合併

三次市は、平成 16 年 4 月 1 日に 1 市 4 町 3 村（旧三次市・旧君田村・旧布野村・旧作木村・旧吉舎町・旧三良坂町・旧三和町・旧甲奴町）が新設合併、また庄原市は、平成 17 年 3 月 31 日に 1 市 6 町（旧庄原市・旧西城町・旧東城町・旧口和町・旧高野町・旧比和町・旧総領町）が新設合併し、それぞれ誕生しました。



## 2. 自然環境

### (1) 位置・地勢

三次市は広島県の北東部で中国地方のほぼ中央、大阪・下関へ共に約 250km と東西の中間に位置しています。面積は、広島県の総面積の約 9.2%にあたる 778.19 平方キロメートル。中国地方最長の江の川を本流に神之瀬川、西城川、馬洗川等の支流が三次盆地の中央で合流し、各支流沿いに 150～200m の平坦地が広がっています。その背後は、概ね 300～600m の緩やかな枝状の丘陵・山地で、北部の県境周辺は 800～900m 級の山々に囲まれた急峻な地形となっています。

庄原市は広島県の北東部に位置し、東は岡山県、北は島根県・鳥取県に隣接しています。面積は、広島県の総面積の約 14%にあたる 1,246.60 平方キロメートルで、全国自治体の中では 11 番目、関西以西では最大の広さ。標高 150～200m の盆地をはじめ、全般に緩やかな起伏状の台地を形成していますが、北部の県境周辺は 1,000m 級の山々に囲まれ、急峻で狭あいな地形となっています。市内には、江の川水系の河川（西城川・比和川・神之瀬川・田総川など）と高梁川水系の河川（成羽川・帝釈川など）が流れています。

## (2) 気象

三次市と庄原市（備北地域）は、概略的には瀬戸内海気候に属しますが、周囲を山地・丘陵に囲まれているため、昼間と夜間の寒暖差が大きいなど内陸の盆地特有の特徴も有しています。

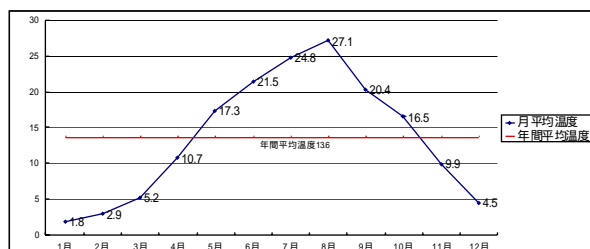
三次市の平成 18 年の平均気温は 13.6 、年間降水量は約 1,800mm で、月別平均気温では 8 月が 27.1 で最も高く、1 月が 1.8 で最も低くなっています。三次市では秋から早春にかけての早朝、この地方では珍しい霧が発生するのが特徴です。

庄原市の平成 18 年の平均気温は 12.6 、年間降水量は 1,470mm で、月別平均気温では 8 月が 24.9 で最も高く、2 月が 0.3 で最も低くなっています。北部と南部で気象条件が異なり、北部の高野地区では年間平均気温が 10 前後となっています。

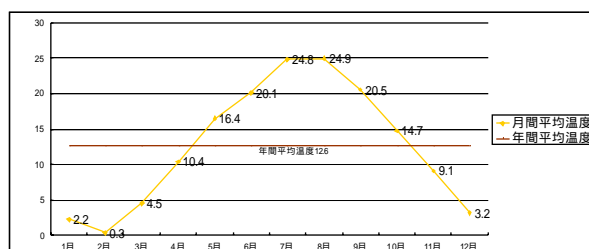
降雪期間は、三次・庄原市共に概ね 12 月中旬から 3 月中旬まで 3 か月に及び、特に三次市の君田・布野・作木地区、庄原市の高野地区は豪雪地帯となっています。

広島市の平成 18 年の平均気温が 16.3 、年間降水量が 1,963mm であることから、備北地域は全般に気温が低く、降水量が少ない傾向にあります。

三次市の月別平均気温（平成 18 年）



庄原市の月別平均気温（平成 12 年）



資料：三次・庄原市共に、広島地方気象台「広島県の気象」をもとに作成

三次市・庄原市・広島市の気温 / 降水量（三次市・広島市は平成 18 年、庄原市は平成 12 年）

	気温			降水量		
	年間平均 ( )	最高(極値) ( )	最低(極値) ( )	年間量 (mm)	日最大 (mm)	最大起日 (月日)
三次市	13.6	36.7	-4.9	1,799.00	124	9.16
庄原市	12.6	34.2	-7.2	1470.00	72	9.22
広島市	16.3	36.2	-2.8	1963.00	103	5.10

資料：広島地方気象台「広島県の気象」をもとに作成

### (3) 動植物

三次市と庄原市は島根県・鳥取県と隣接しており、県境付近の山々では貴重なブナの自然林が残っています。特に、比婆山山頂付近のブナ林は面積が広いうえに自然度が高く、国の天然記念物に指定されています。

灰塚ダム周辺の上下川・田総川沿い等の地域は「里山」が豊富に残っており、カタクリ等の春植物の宝庫となっています。総領地区は、市の指定天然記念物で環境省および県の絶滅危惧Ⅱ類に指定されている「セツブンソウ（節分草）」の日本有数の自生地となっています。三次市吉舎町等では、県の絶滅危惧種で環境省の絶滅危惧Ⅱ類に指定されているダルマガエルが生息。個体数が激減しているブッポウソウ等も含め、それぞれ地元住民による保護・生育活動も行われています。

灰塚ダム知和ウェットランドには、国特別記念物のコウノトリが飛来したことで話題となりました。



ブナの自然林



節分草



ダルマガエル



NPO 法人節分草保存会



絶滅危惧種保存会



絶滅危惧種保存会



### 3. 社会環境

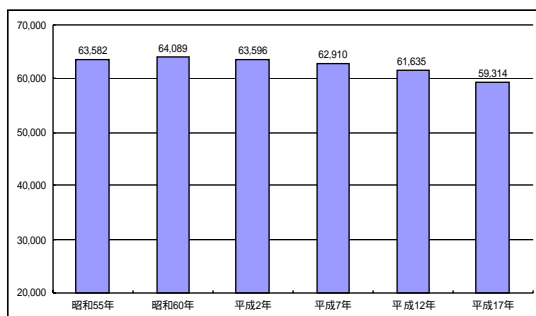
#### (1) 人口

##### 1) 人口の減少

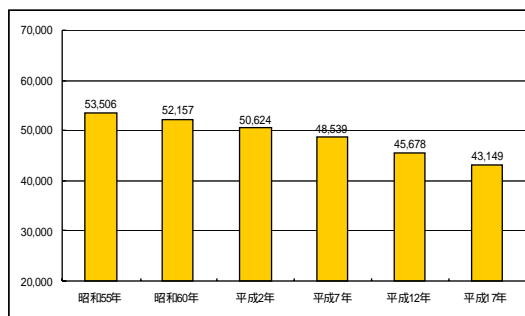
三次市は、世帯数こそ平成7年を除いてやや増加傾向にありますが、人口は昭和60年以降、緩やかな減少傾向にあり、全国同様、少子化・核家族化が進行していることが伺えます。人口は平成17年に6万人を下回り、この25年間で約4,000人の減少となっています。

庄原市の人口は昭和55年以降、減少傾向にあり、この25年間で約1万人の減少。三次市同様に少子化・核家族化が進行していることが伺えます。世帯数はこの25年間横ばい状態が続き、15,000戸台で推移しています。

三次市の人口の推移 (単位：人)

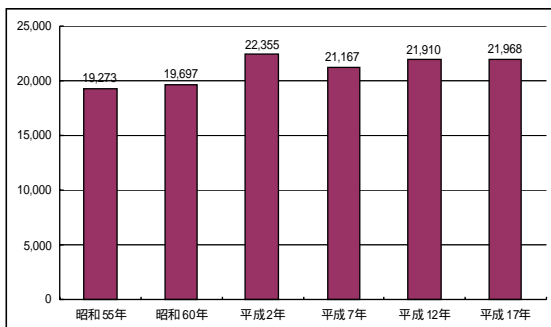


庄原市の人口の推移 (単位：人)

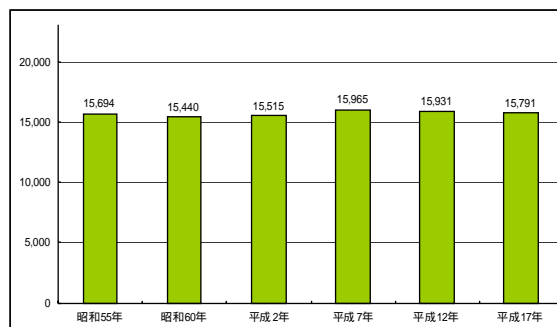


資料：三次市・庄原市共に国勢調査をもとに作成

三次市の世帯数の推移 (単位：世帯・戸)



庄原市の世帯数の推移 (単位：世帯・戸)



資料：三次市・庄原市共に国勢調査をもとに作成

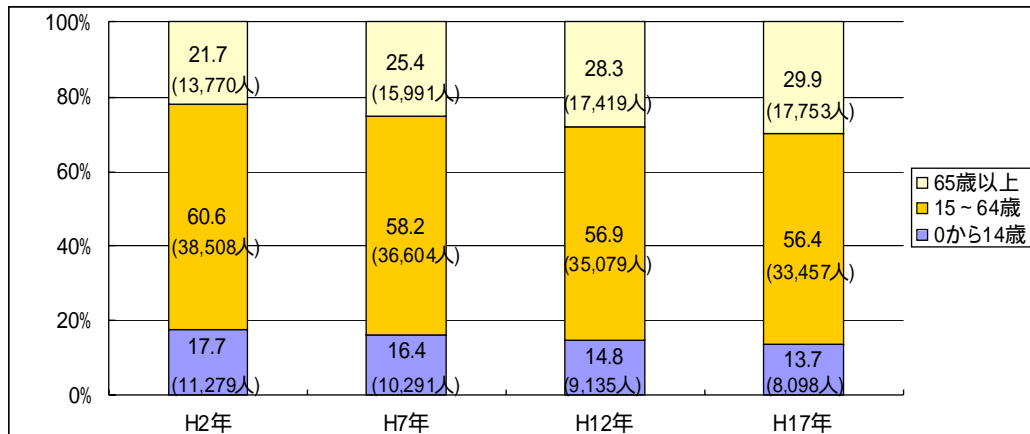
## 2) 少子・高齢化の進行

三次市の年齢階層別人口は、年少人口（0～14歳）と生産年齢人口（15～64歳）が減少傾向、老年人口（65歳以上）が増加傾向にあり、少子化・高齢化が顕著に表れています。

三次市同様、庄原市の年齢階層別人口も年少人口（0～14歳）と生産年齢人口（15～64歳）が減少傾向、老年人口（65歳以上）が増加傾向にあり、少子化・高齢化が進行しています。

三次市の年齢階層別人口の推移

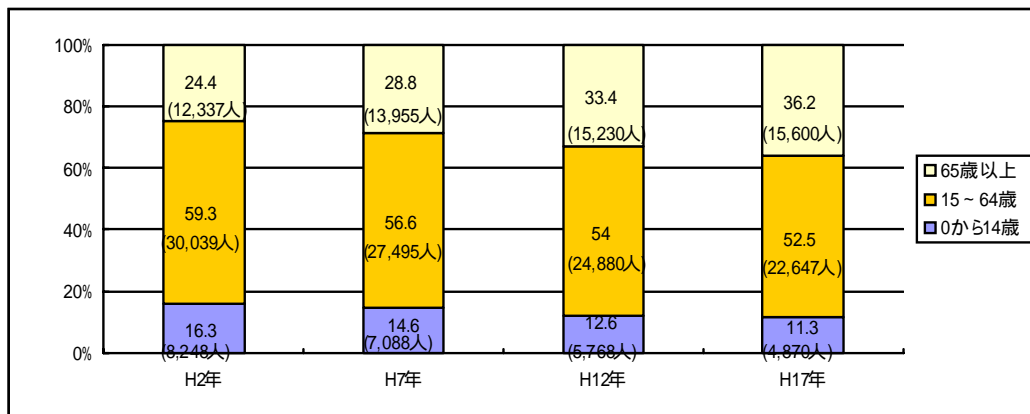
（単位：％、人）



資料：国勢調査をもとに作成

庄原市の年齢階層別人口の推移

（単位：％、人）



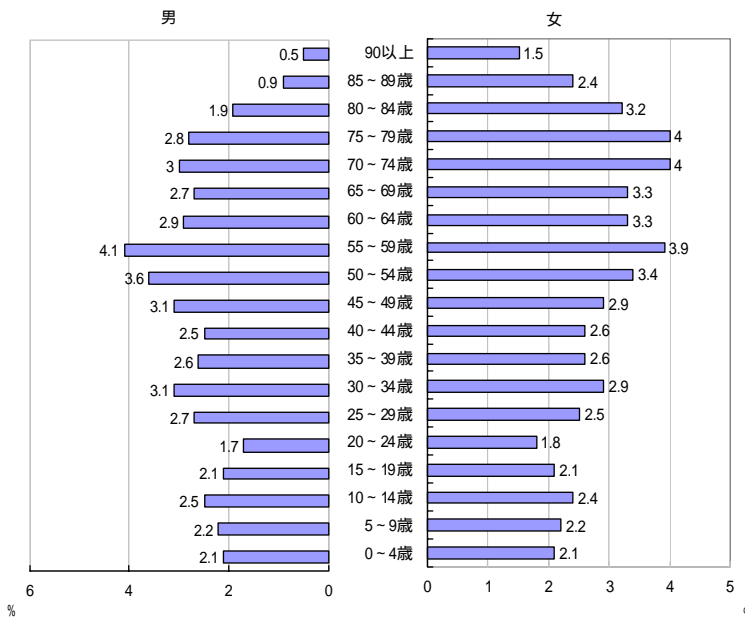
資料：国勢調査をもとに作成

### 3) 人口構造

三次市の人口ピラミッドをみると、団塊世代を含む 50～59 歳、これから介護が必要になる 70～79 歳の世代割合が高くなっています。庄原市の人口ピラミッドは、少子高齢化社会を示す典型的な「つぼ型」。三次市同様、50～59 歳、70～79 歳の世代割合が高く、また三次市より著しく高齢化が進行しているのが分かります。

三次市の人口ピラミッド（平成 17 年）

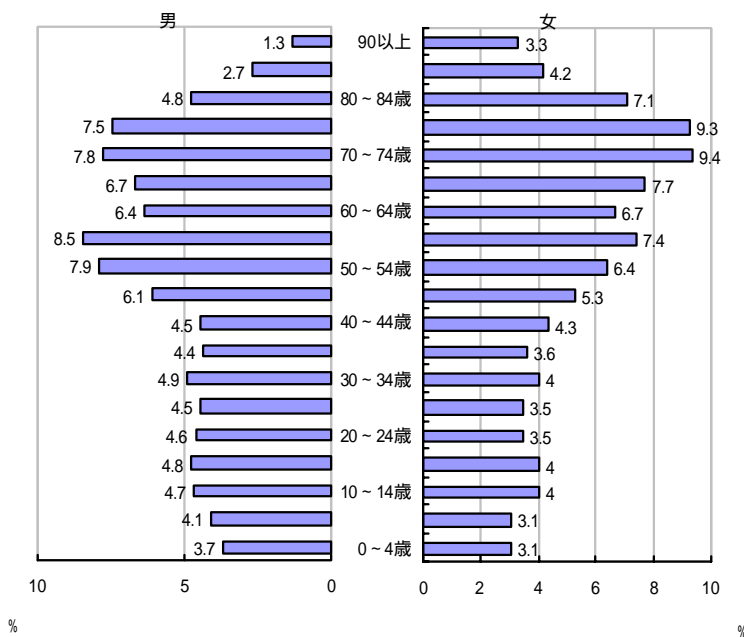
（単位：％）



資料：国勢調査をもとに作成

庄原市の人口ピラミッド（平成 17 年）

（単位：％）



資料：国勢調査をもとに作成



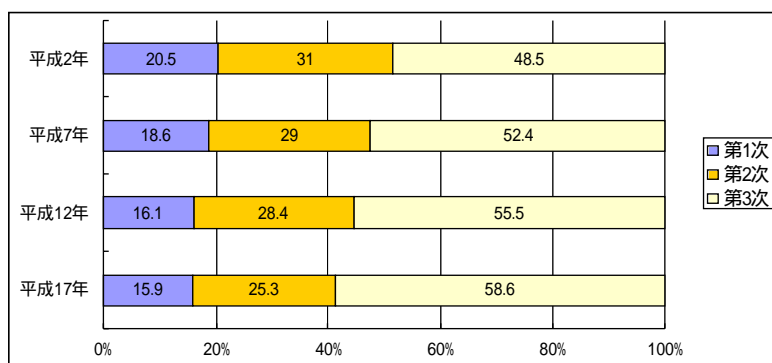
## (2) 産業

### 1) 産業別人口

産業別人口は、三次市・庄原市共に第1次産業（農業・林業・漁業）と第2次産業（鉱業、建設業、製造業）が減少傾向、第3次産業（電気・ガス・熱供給・水道業、運輸・通信業、卸売・小売業、飲食店、金融・保険業、不動産業、サービス業、公務など）は増加傾向にあります。

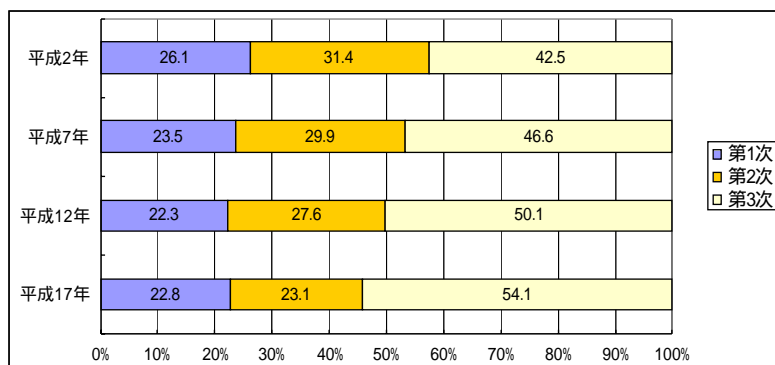
平成17年の広島県全体の産業別人口と比較すると、県全体の第1次産業が4.4%であるのに対し、三次市は15.9%、庄原市は22.8%と高く、県全体の第3次産業が68.0%であるのに対し、三次市は58.6%、庄原市は54.1%と低くなっているのが特徴です。

三次市の産業別人口割合の推移 (単位：%)



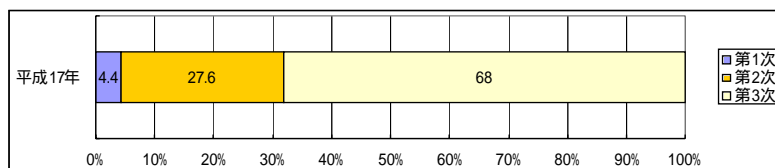
資料：国勢調査をもとに作成

庄原市の産業別人口割合の推移 (単位：%)



資料：国勢調査をもとに作成

広島県の産業別人口割合 (単位：%)



資料：国勢調査をもとに作成

## 2) 農林業

農業は、三次市・庄原市共に農業算出額の第1位が米、第2位が鶏卵、第3位が生乳となっています。そのほか、三次市では、大豆・麦・アスパラガス・ぶどう・なし等の振興が図られる一方、転作作物を使った加工品・特産品の開発や販売等の取り組みも進められています。庄原市では、野菜・花き・果樹等の農作物、木材、林産物などが基幹産業となっています。

しかし、農家数は三次市・庄原市共に減少傾向で衰退傾向にあり、65歳以上の農業就人口割合が三次市は35.1%、庄原市にいたっては70%を超えており、高齢化の進行と後継者不足に伴う労働不足が伺えます。

三次市・庄原市の農家数 / 農業就業者数

(単位：戸、人、%)

	総農家戸数				農業就業者数	65歳以上 就業者 人口割合
	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年		
三次市	8,011	7,276	6,579	不詳	24,115	35.1
庄原市	7,639	7,033	6,491	6,073	7,118	70.2

65歳以上就業者数は三次市は平成12年、庄原市は平成17年

資料：世界農林業センサスをもとに作成

## 3) 工業

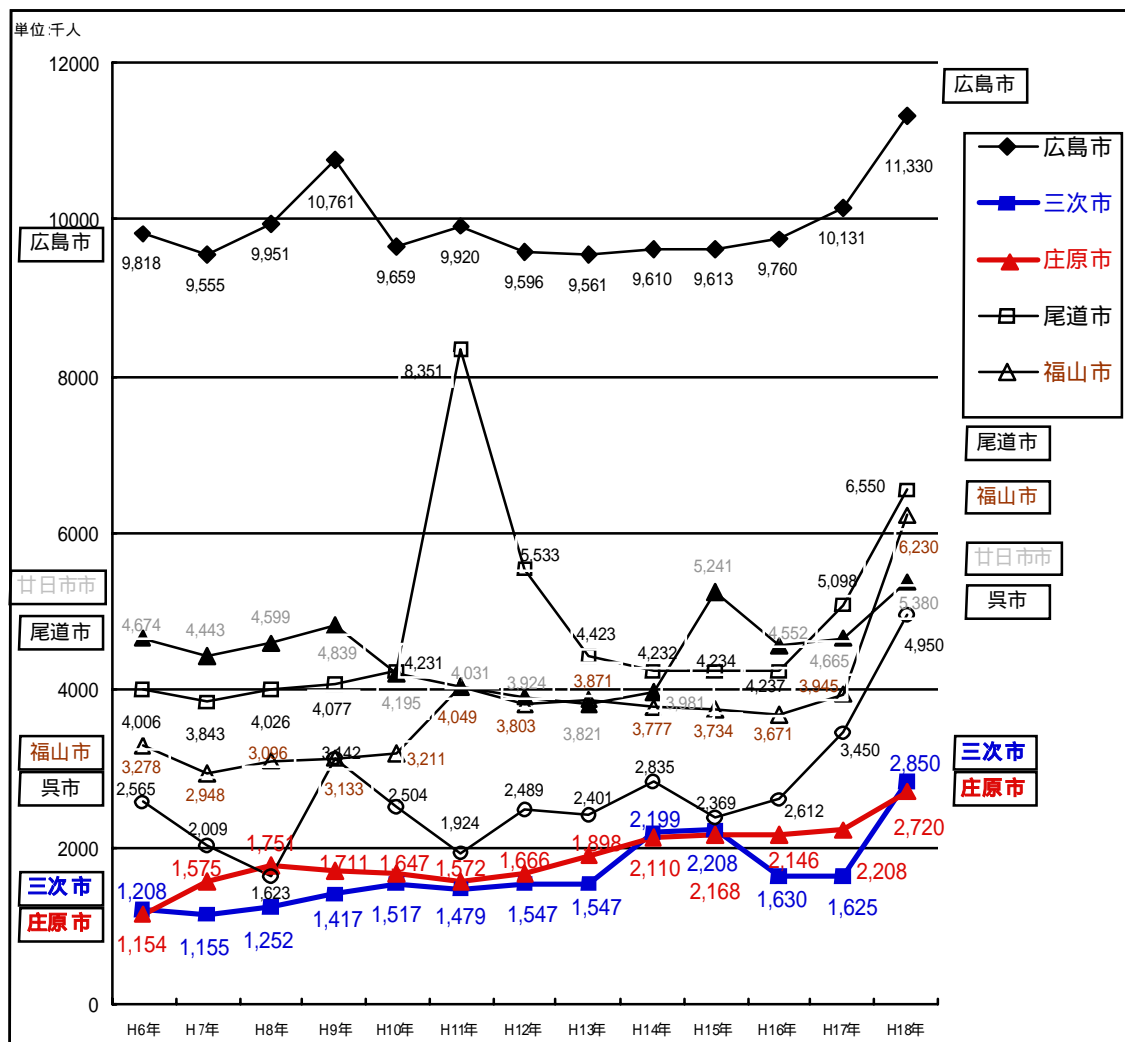
三次市の工業は、ハイテク産業である電気機械機器製造業が中心で、工業出荷額の約半分を占めるばかりか、産業の大きな柱となっています。庄原市の工業は、個人および中小事業所での経営が主で、機械器具・窯業・電子部品・食料品等の製造業、建設業が中心となっています。全国有数のろう石・石灰石の産地で、採掘・加工による鉱業が古くから地域産業として根付いています。

#### 4) 観光

三次市の総観光客数は平成15年をピークに減少傾向にありましたが、平成18年は285万人(対前年比17.1%)で、県内市町別の順位の6位に躍進しています。広島三次ワイナリー(約39万人)や君田温泉の森ふぉレスト君田(約25万人)などの人気施設に加え、奥田元宗・小由女美術館のオープン(4/15開館、約23万人)が大きなプラス材料となっています。

庄原市の総観光客数は、平成9年から同11年にかけて伸び悩んでいましたが、以後は緩やかな増加傾向にあります。平成18年は272万人(対前年比3.3%)で、県内市町村別の順位は三次市に次ぐ7位。国営備北丘陵公園(約46万人)や道後山(約24万人)、比婆山(約13万人)、休暇村帝釈峡(約7万人)等、豊かな自然を活かした観光資源が人気を集めています。

三次市と庄原市および県内主要観光地の総観光客数の推移 (上位7位)(単位:千人)



資料:平成18年広島県観光客数の動向をもとに作成

## 4. 特色

### (1) 三次市

長期総合計画の将来像

#### **みんなで創る緑の未来都市（ふるさと）～夢と元気があふれるまち**

##### 自然環境

- ・ 三次市北部の県境周辺は 800～900m 級の山々に囲まれ、神之瀬峡一帯は県立自然公園に、女亀山や常清滝等の周辺は県自然環境保全地域に指定されています。
- ・ 山々に囲まれた三次盆地の中心部で神之瀬川、西城川、馬洗川等の支流が合流、また秋から早春にかけての早朝、雄大で幻想的な「霧の海」が発生滞留することから“川と霧のまち”と呼ばれています。

##### 地域文化

- ・ 三次盆地は広島県内で最も古代遺跡や古墳が多く、3000～4000 基の古墳があるといわれています。
- ・ 石見銀山（島根県）で採掘された銀や銅が、赤名峠から三次・吉舎経由で大阪へ運ばれるなど、街道や川船交通によって発展してきました。
- ・ 江戸時代は、浅野氏の三次藩が三次地方を統治。初代藩主の浅野長治は、三方を川に囲まれた町全体を城郭と考えて城を築かず、藩主の館を中心にその周りに家来や町人が生活する“総郭型”の町づくりを実施。堤防の築堤や鵜飼の保護などにも努めました。
- ・ 浅野長治の娘、阿久利姫が赤穂藩（兵庫県）の藩主・浅野長矩内匠頭に嫁いだことから、“忠臣蔵”の話と深い関わりがあり、ゆかりのある史跡や祭が今に伝えられています。
- ・ 江戸時代中期、実在した稲生平太郎（武太夫）が妖怪たちに立ち向かい、ついには妖怪の魔王を退散させる「稲生物怪物語」が全国的に有名です。
- ・ 野球が盛んで 4 人の現役プロ野球選手を輩出しています（広島・永川投手、広島・梵（そよぎ）選手、巨人・二岡選手、阪神・福原投手）。

##### 観光特性

- ・ 神之瀬峡や霧の海、常清滝などの自然観光資源が豊富で、周辺にはキャンプ場やコテージ、釣り場等のレジャー・体験スポットも数多く整備されています。
- ・ 馬洗川の鵜飼は 400 年の歴史があり、夏の風物詩として親しまれています。
- ・ 「奥田元宗・小由女美術館」をはじめ「三良坂平和美術館」や「美術館あーとあい・きさ」「はらみちを美術館」など、芸術文化施設が点在しています。
- ・ 県内で最も遺跡や古墳が多い三次らしく、「広島県立みよし風土記の丘」や「広島県立歴史民俗資料館」等の歴史観光資源も豊富です。
- ・ マスカットと巨峰を掛け合わせた三次特産のピオーネを使った三次ワインが味わえ、人気を集めています。

### 三次市の主な特色



神之瀬峡



霧の海



鵜飼



三次ワイン

## (2) 庄原市

### 長期総合計画の将来像

**“げんき”と“やすらぎ”のさとやま文化都市～人と地域が輝く、美しい日本のふるさと～**

#### 自然環境

- ・ 石灰岩台地が帝釈川に浸食にされて形成された「帝釈峡」は、オオサンショウウオ等の貴重な野生生物が生息し、8,000～10,000年前の古代住居跡と考えられる「岩陰遺跡」が発見されるなど、自然の宝庫として生物学・地質学考古学等の様々な分野から注目を集めています。
- ・ 比婆山のブナ林は、国指定の天然記念物で市の木にも制定されています。
- ・ 「熊野神社の老杉」「熊野の大トチ」「上高野山乳下がリイチョウ」「湯木の大モミ」の等の樹齢数百年の巨木・老木が多数あり、地元の人々に愛され、信仰を集めています。
- ・ 昭和56年、西城川の河原で「ショウバラクジラ(仮称)」をはじめ、貝やウニ等の化石が発見され、庄原市田園文化センターに展示されています。
- ・ 総領地区は貴重な「節分草」の自生地として知られ、多くの山野草を見ることができます。

#### 地域文化

- ・ 比婆山丘陵は、日本最古の歴史書「古事記」にも記述があり、「伊邪那美命(いざなみのみこと)」の陵墓と伝えられ、“比婆山伝説”として県史跡に指定されています。
- ・ 江戸時代から明治時代にかけて、西城・東城・高野・比和は「鑪(たたら)製鉄」の興隆とそれに伴う交易の場「市」により発展しました。
- ・ 内陸特有の気候と中国山地の自然を背景に、総領地区に代表される「里山文化」が根付き、育まれています。
- ・ 平成19年1月、未利用資源を有効活用して資源循環型社会のまちを目指すため、広島県内では初の「庄原市バイオマスタウン構想」が策定されています。
- ・ 西城地区では、比婆山に出没したという伝説の生物「ヒバゴン」が町のシンボルキャラクターに。ヒバゴンにちなんだイベントや活動などが行われています。

#### 観光特性

- ・ 1,000m級の山々に囲まれた北部の県境周辺は積雪量が多く、6つのスキー場が点在。“広島県の北海道”といわれる、豪雪地帯の高野地区では「広島県雪合戦大会」も開催されています。
- ・ 「道後山高原クロカンパーク」「大鬼谷キャンプ場」「県民の森」「フィッシャーリゾートしょうばら」など大自然の中でスポーツやレジャーが楽しめる施設が充実しています。
- ・ 「国営備北丘陵公園」では一年を通じて美しい花々が咲き、キャンプやレジャーを楽しむ観光客で賑わいます。毎年7月下旬に開催される野外コンサートは夏の風物詩として定着。
- ・ 「庄原さくら温泉」「比和温泉」「鮎の里温泉」など、温泉施設が点在しています。
- ・ 高野や東城地区等では観光りんご園が多く、シーズンにはりんご狩りを楽しむ人で賑わいます。

## 庄原市の主な特色



帝釈峡の雄橋



国営備北丘陵公園



高野の雪合戦大会



ワニ(サメ)料理

## 5. 参考資料：市民の声（住民アンケート）

参考資料として『三次市総合計画 みよし百年物語』の「平成 17 年まちづくりアンケート調査結果」、『庄原市長期総合計画 平成 18(2006)～平成 27(2015)年度』の市民の声(住民意向アンケート調査(上位 5 位))を抜粋して紹介します。

### (1) 地域で誇れるもの、自慢できるもの

三次市・庄原市共に、最も自慢できるものとして「自然」と答えています。美しくのどかで雄大な自然はかけがえのない宝物であり、重要な観光資源として認識していることが伺えます。

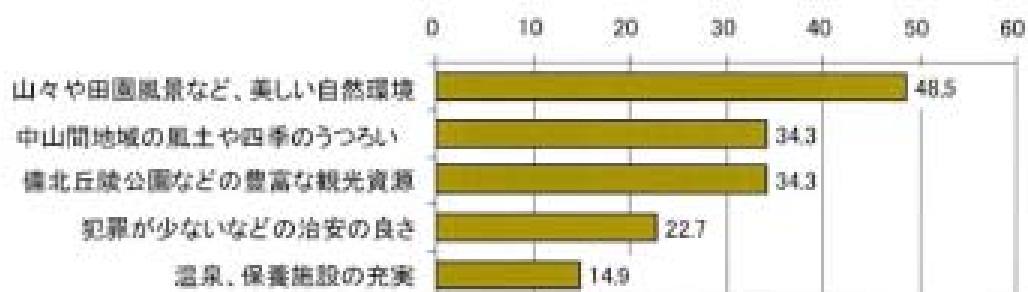
問：三次市であなたが自慢できるものは何ですか（2つまで自由記述）

区 分	内容（10件以上抜粋）	件 数
自 然	霧の海	150
	豊かな自然	134
	常清滝	11
	その他	84
伝統芸術・歴史・史跡など	鞆阿	65
	三次人形	20
	その他	30
特産品	ピオーネ	50
	三次ワイナリー	14
	ワイン	13
	その他	24
施設・建築物・景観など	君田温泉森の泉	19
	巴橋	11
	ジミー・カーターシビックセンター	10
	その他	37
祭・イベントなど	花火大会	42
	きんさい祭	12
	その他	19
人情味など	人の優しさ	17
	その他	13
その他	市出身者、学校など	90
合 計		865

問：庄原市の自慢できるものは何だと思いますか（3つ以内に ）

・市民アンケート

（単位：％）





## (2) 地域への愛着度

三次市では、概ね約4分の3の人が「愛着を感じている」「愛着をやや感じている」と答え、女子より男子が地域に愛着を持っていることが分かります。

庄原市の市民アンケートでは、半数以上の人が「愛着を感じる」と答えているのに対し、中高生アンケートでは3分の1強にとどまっています。また「どちらともいえない」と答えた人が市民アンケートでは12.5%なのに対し、中高生アンケートでは40.9%に上っています。

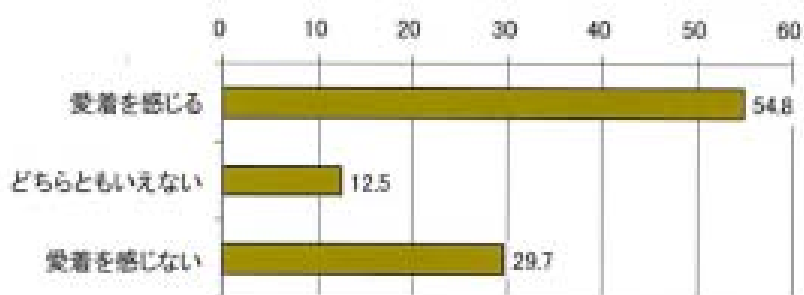
問：あなたは、三次市に「自分のまち」としての愛着をどの程度感じていますか



問：庄原市に愛着を感じていますか（1つだけに ）

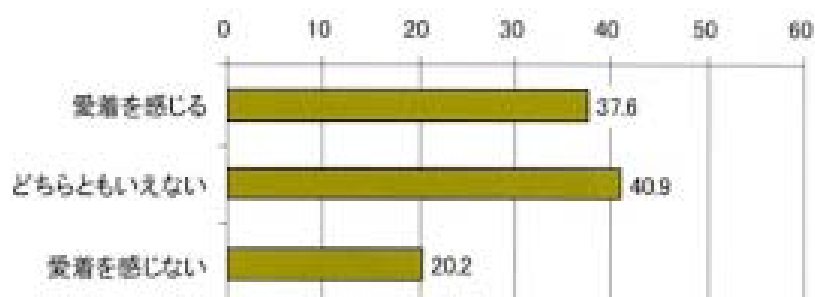
・市民アンケート

（単位：％）



・中高生アンケート

（単位：％）

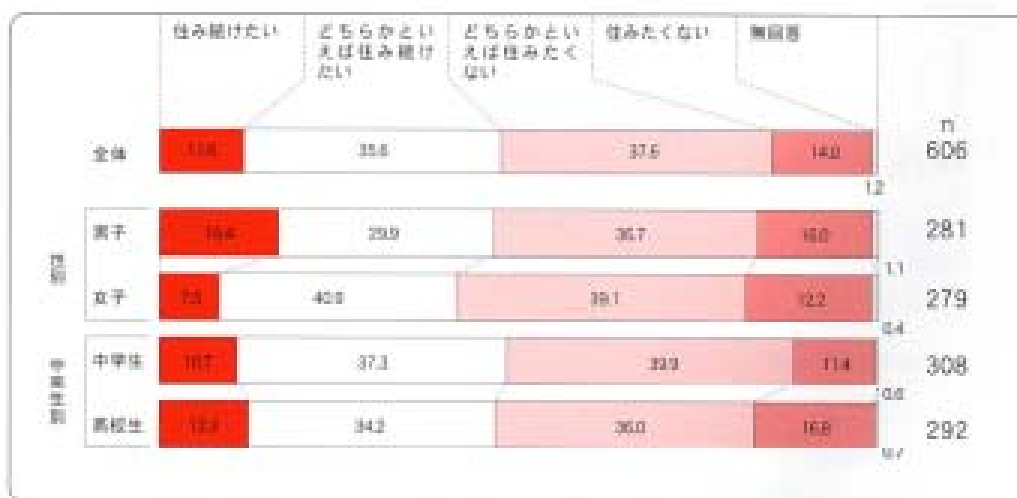


### (3)-1 将来について（定住意向）

三次市では、半数近くの人が「住み続けたい」「どちらかといえば住み続けたい」と答えており、その気持ちは男子が強く、女子が弱くなっています。

庄原市の市民アンケートでは 74.2%の人が「このまま、ずっと庄原市で暮らす」と答えているのに対し、中高生ではわずか 6.7%にとどまり、「多分、市外へ転出すると思う（庄原市では暮らさないと思う）」と答えた人が 38.7%にも上っています。

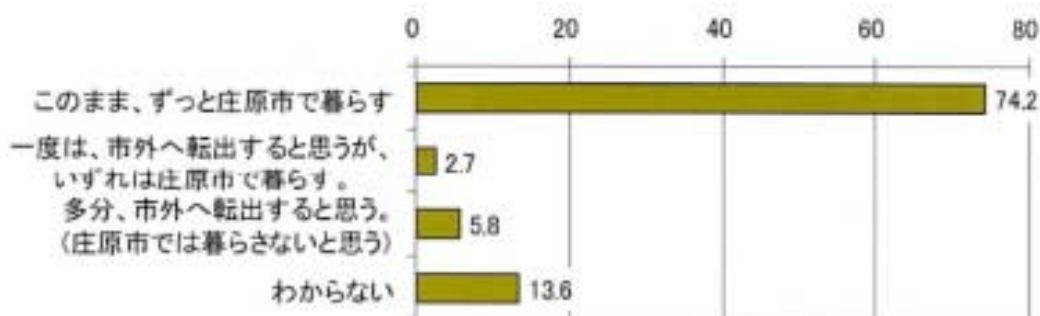
問：あなたは、将来も三次市に住み続けたいと思いますか



問：今後も、庄原市に住みたいと思いますか（1つだけに）

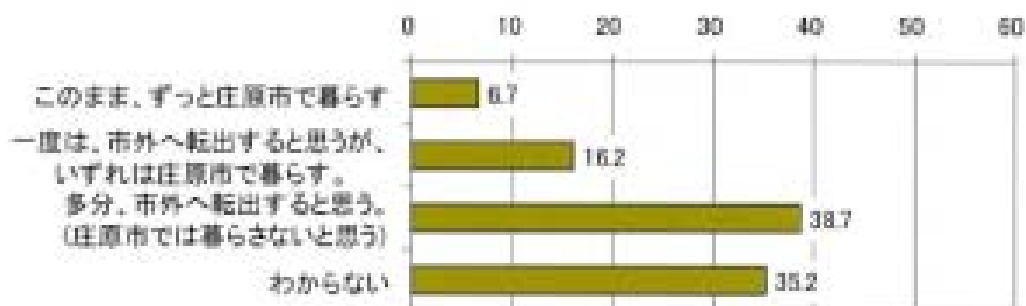
・市民アンケート

（単位：％）



・中高生アンケート

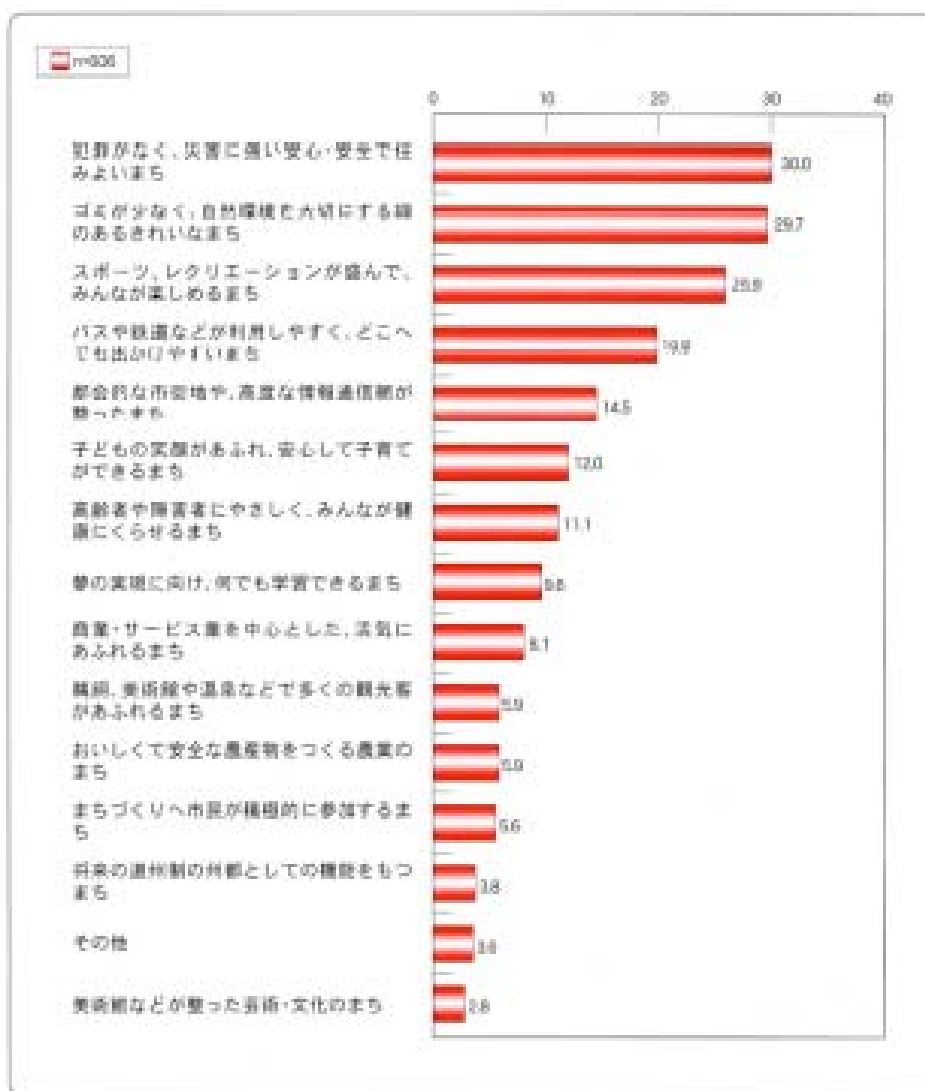
（単位：％）



### (3)-2 将来について（地域のあり方）

三次市・庄原市共に、総じて安心・安全で快適な地域であることを望んでいますが、注目したいのは「自然環境」「スポーツ」「子ども」「高齢者」への視点が大きいこと。過疎化・高齢化が進行するなか“共生”への願いがよく表れています。

問：あなたは、今後、三次市をどのような特色のあるまちにすべきだと考えますか（全体/複数回答）



問：庄原市は、将来、どんなまちになってほしいですか（2つ以内に）

・中高生アンケート

（単位：%）

